

島根県立 古代出雲歴史博物館 NEWS

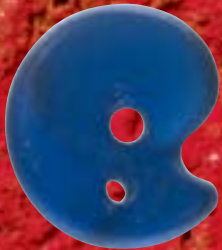
2007.OCT vol. 3



CONTENTS

- 2・3 企画展「弥生王墓誕生」のご案内
- 4・5 展示室あれこれ／学芸員通信／新刊案内／古代出雲歴史博周辺今昔
- 6・7 秋篠宮様ご来館／イベントニュース
- 8 ボランティア通信／来館者の声／博物館行事

弥生時代後期 出雲の地に「王」が誕生した！



西谷3号墓第1埋葬施設出土
ガラス製勾玉
(島根大学考古学研究所蔵)



国宝・金印
(福岡市博物館所蔵)

西谷3号墓復元模型 (S=1/25)



企画展

弥生王墓誕生

期間：平成19年10月12日(金)～12月16日(日)



弥生王墓誕生 —出雲に王が誕生したとき—

弥生時代後期(2世紀)、出雲の地に「王」が誕生した。

それは、かつてないほど大規模な「王墓」の出現によって証明されます。王墓は「四隅突出型墳丘墓」という特異な形で造られ、山陰地域をはじめ、中国山地や遠くは北陸地方でも造られています。

今回の企画展では、王墓・西谷墳墓群(出雲市)を中心に島根・鳥取の弥生墳墓を総合的に紹介し、山陰弥生社会の一端に光をあてます。また、同時代に西日本各地に登場した王墓について出土品をとおして紹介し、群雄割拠の激動の時代を切り開いた覇者たちの比較も行います。弥生時代の各地の王墓出土品をはじめ、約700点の資料が集合することも、志賀島の国宝金印が福岡県外に出ることも稀！ 皆様を悠久の弥生の世界に誘います。

プロローグ

王墓の誕生

日本列島の各地で地域を代表する「王」が登場したのは、今から2000年～1800年前のことでした。この時、出雲の地にも「王」が登場したのです。

西谷3号墓第1埋葬施設出土の玉類
(島根大学考古学研究所蔵)



【会期】

平成19年

10月12日(金)～12月16日(日)

【会場】

古代出雲歴史博物館
特別展示室

開館時間: 9:00～18:00

(11月以降は17:00まで)

休館日: 10月16日(火)、11月20日(火)

●観覧料

		当日券	団体券	前売券
一般	企画展	700円	560円	550円
	常設展	600円	480円	—
	セット券	1,000円	800円	800円
大学生	企画展	400円	320円	—
	常設展	400円	320円	—
	セット券	600円	480円	—
小中高生	企画展	200円	160円	—
	常設展	200円	160円	—
	セット券	300円	240円	—

※団体は20名以上です。
※小・中・高生の学校教育活動での観覧は無料(観覧料減免申請書の提出が必要)です。
※障害者手帳をお持ちの方、及びその付添人(手帳保持者1人につき、1人まで)は無料です。

主催/島根県立古代出雲歴史博物館
島根県古代文化センター
後援/出雲市、朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞松江支局、日本経済新聞社松江支局、中国新聞社、山陰中央新報社、新日本海新聞社、島根日日新聞社、NHK松江放送局、BSS山陰放送、日本海テレビ、山陰中央テレビ、エフエム山陰、山陰ケーブルテレビジョン、出雲ケーブルテレビジョン株式会社、ひらたCATV株式会社

第1章

弥生文化の黎明

「王」が登場した弥生時代とはどんな時代だったのでしょうか？

朝鮮半島を発し、九州北部を経由して西日本一円に広がった弥生文化は、この出雲の地にももたらされました。完成された農業技術を携えてやってきた渡来系弥生人は、在来の縄文人とうまく協調して、出雲の地に農耕文化を定着させたのです。

拠点港湾を近くに持つ出雲平野では、矢野遺跡など、多くの集落が営まれます。「王」の誕生する下地は、弥生時代の前～中期に育まれていくのです。



松江市西川津遺跡出土の弥生時代前期の土器

関連イベント

連続講座

【時間】各回とも
13:30～15:00
【場所】古代出雲歴史博物館 講義室
【定員】先着100名
(事前申込みが必要)
【申込】☎0853-53-8600
FAX 0853-53-5350
ホームページのイベント参加フォームにて受付。
※定員となり次第、締切りとさせていただきます。

- 第1回 平成19年10月21日(日)
講座 「四隅突出型墳丘墓の発見史」
古代出雲歴史博物館専門学芸員 守岡利栄
- 第2回 平成19年11月4日(日)
講座 「四隅突出型墳丘墓の誕生秘話」
古代出雲歴史博物館主任学芸員 仁木 聡
- 第3回 平成19年11月25日(日)
講座 「山陰の集落遺跡から王墓をみる」
島根県埋蔵文化財調査センター文化財保護主任 中川 寧
- 第4回 平成19年12月2日(日)
講座 「青銅器祭祀の終焉と王墓誕生」
古代出雲歴史博物館学芸部長 松本岩雄

神在月古代文化シンポジウム

「王墓誕生—出雲に王が生まれた時—」

【日時】平成19年11月11日(日) 13:00～17:30
【場所】大社文化プレイス うらら館
(定員600名・事前申込みが必要)
島根県出雲市大社町杵築南1338-9
【申込先】島根県古代文化センター
TEL 0852-22-6725
【主催】島根県古代文化センター
【基調講演】 島根大学教授 渡邊貞幸氏
【シンポジウム・パネリスト】
島根大学教授 渡邊貞幸氏
福岡市教育委員会 常松幹雄氏
徳島文理大学教授 大久保徹也氏
京都府埋蔵文化財調査研究センター 肥後弘幸氏
島根県立古代出雲歴史博物館 岩橋孝典

ワークショップ

*7ページ参照

- ① 弥生土器づくり体験 11月18日(日)
- ② 「はんこ(印)」づくり体験 12月9日(日)

第2章 王墓誕生



西谷3号墓出土の吉備系土器
(島根大学考古学研究所蔵)

弥生時代後期、ついに^{にしだに}出雲の地に「王」が登場します。王の存在は「王墓」の築造により証明されます。出雲市大津町の丘の上にある「西谷墳墓群」こそ出雲最初の「王墓」群です。西谷墳墓群に6基造られた四隅突出型墳丘墓のうち、調査により埋葬施設が見つかった3号墓の出土品を中心に展示を行います。そして、このような「王」は日本国内の各地で登場しています。この章の展示では、吉備、伯耆、因幡、丹後、越（北陸地域）などの地で登場した「王墓」についても紹介し、王たちの交流や個性を探ります。

第3章 検証! 山陰の弥生墳墓のすべて

「王墓」が登場するまではどのような墳墓が造られていたのでしょうか？ また、「王」を支えた人々の墓はどのようなものであったのでしょうか？ 山陰の弥生墳墓を総合的に紹介します。

出雲の弥生墳墓は、弥生前期から墓の目印として「石」を使うことにこだわります。これは、朝鮮半島や九州北部の支石墓の伝統を強く意識したものです。弥生時代中期に造られた方形貼石墓を経て、弥生時代後期には四隅突出型墳丘墓が造られますが、石を使う伝統は絶えませんでした。

松江市堀部第1遺跡の標石墓群(弥生時代前期)
写真提供:松江市教育委員会



第4章 倭人伝の国々の弥生墳墓

西谷墳墓群で王墓が造られた2世紀後半～3世紀前半の日本列島の様子は、中国の歴史書『三国志 魏志倭人伝』にも記述されています。それによると、日本列島は多数の国にわかれ、群雄割拠の様相を呈していたことが知られています。

この章の展示では、九州北部、^{あき}安芸、^{たじま}吉備、丹後、越（北陸地域）の弥生墳墓についてその特徴や個性を紹介します。

福岡県志賀島出土 国宝 金印(福岡市博物館蔵)
写真提供:福岡市博物館
※実物は11月21日～12月2日の間に展示し、その他の会期中はレプリカを展示します。

国宝 金印
島根初公開

エピローグ 王位の継承者たち

全盛を誇った四隅突出型墳丘墓の造営も終焉を迎えるときがきます。3世紀半ばごろ、近畿地方を中心としたヤマト政権が誕生します。各地の王を統括する「大王」の出現は、弥生王墓を遙かに上回る規模の前方後円墳の築造によって知ることができます。弥生時代の「王」から古墳時代の「大王」へのバトンタッチがどのように行われたのかを紹介します。

雲南市神原神社古墳出土 重要文化財
景初三年銘三角縁神獸鏡(文化庁所蔵)



神像 —あらわされた神々の姿—

テーマ別展示「出雲大社と神々の国のまつり」では、9月19日から12月17日まで、「神像」をテーマに展示を行います。

仏像にならない、わが国古来の神々の姿を彫像であらわした神像。通常、社殿の奥深くにまつられ、人目にふれることが少ないため、仏像ほどポピュラーではないようです。むかしの貴人の姿をかりた男神像・女神像、仏教の僧侶の姿にあらわされた僧形像^{そうぎょうざう}など、その像容はさまざまです。

今回は松江市成相寺^{じょうそうじ}、大田市喜多八幡宮^{きたはちまんぐう}、益田市櫛代賀姫神社^{くししろかひめ}等に伝わる諸像を展示公開します。平安時代から室町時代にいたる神像彫刻の美をご堪能ください。



神像 成相寺所蔵

我が国を代表する神社本殿の建築模型

専門学芸員 錦田 剛志



テーマ別展示室「出雲大社と神々の国のまつり」の一角に、我が国を代表する神社本殿の建築模型6種類（縮尺1:50）が勢揃いしていることをご存じでしょうか。

対象としたのは、右表のとおり。いずれも、古代以来、国家的な祭祀の対象となってきた古い歴史と伝統を有する神社です。各社の本殿建築は、建て直しや修理の際に、古い時代の形式を次の時代にも伝承しようとする傾向がつよいので、監修者である黒田龍二博士（神戸大学准教授 専攻：神社建築史）によって、「伝承形式」とも名づけられています。

これらは、およそ4年の歳月をかけ、各社のご協力を得て、現地調査や既存の設計図面の精査、詳細設計を繰り返し、細部の意匠や装飾、色調にいたるまで精巧に表した貴重な学術資料です。こうした比較展示は全国的にも初めての試みで、当館の自慢の一つです。

六つの模型を見渡すと、各社の規模や構造（本殿形式＝「造」）が実に多様で、それぞれ個性豊

かであることがおわかりいただけます。さらに、今日の出雲大社本殿が抜きんでて大きいことも一目瞭然です。

このような本殿の多様性は、一体どこから生じるのでしょうか。それは、古代以来の長い歴史の中で育まれた各社の祭神やその信仰、お祭りの仕方の違いに基づくと考えられます。例えば、出雲大社は神職が御祭神の鎮座する殿内の側にて奉仕するいわば「殿内祭祀」を特徴としており、他社は概ね殿外や庭上での祭祀を基本とする相違点などです。

模型をご覧いただきながら、それこそ八百万神をお祭りする日本の神社の多様な一面に思いを馳せてみてください。

製作対象とした神社本殿建築について

- (ア) 〈大社造〉出雲大社 本殿（国宝）
島根県出雲市 延享元年（1744）造替
- (イ) 〈神明造〉豊受大神宮（外宮）正殿
三重県伊勢市 平成5年（1993）造替
- (ウ) 〈住吉造〉住吉大社 本殿（第一本宮）（国宝）
大阪市住吉区 文化7年（1810）造替
- (エ) 〈八幡造〉宇佐神宮 本殿（第一之殿）（国宝）
大分県宇佐市 安政6年（1859）～文久元年（1861）造替
- (オ) 〈流造〉賀茂別雷神社 本殿（国宝）
京都市北区 文久3年（1863）造替
- (カ) 〈春日造〉春日大社 本殿（4棟）（国宝）
奈良県奈良市 文久3年（1863）造替



島根県古代文化センター調査研究報告書38
出雲国風土記の研究Ⅲ 神門水海北辺の研究 (論考編)

古代文化センターの風土記調査研究事業のうち、「歴史景観復元調査研究事業」では、平成4年の古代文化センター発足以来、センター職員のほか客員研究員と、歴史学・考古学・歴史地理学・地質学等の多分野から『出雲国風土記』の、「秋鹿郡恵曇郷」「島根郡朝酌郷」等の歴史的景観の変遷を調査研究し、調査研究報告書の刊行、古代出雲文化展や古代出雲歴史博物館の展示等の形でその成果を公表してきています。

平成12年度からは、『出雲国風土記』記載の「神門水海」をフィールドに調査研究をしてきました。「神門水海」は、「出雲大川」の河口地帯、その周囲は杵築大社が座す杵築郷を含む出雲・神門の2郡です。「神門水海」は、現在神西湖にその痕跡を残していますが、かつては「出雲大川」が飯石・仁多・大原・出雲・神門諸郡間のみならず、「北ツ海（日本海）」とも人・物を結んでいました。平成17年度までの5年間、関係市町の教育委員会・公民館・コミュニティーセンター・地権者の方々のご協力により、史料調査やボーリングによる地質調査などを行い、「神門水海」北辺の歴史景観の復元調査研究をしてきました。

その調査研究成果は、平成17年度に『出雲国風土記の研究Ⅲ 神門水海北辺の研究 (資料編)』、平成18年度に『出雲国風土記の研究Ⅲ 神門水海北辺の研究 (論考編)』の調査研究報告書として刊行しました。

『資料編』では、神門水海北辺に関する、『出雲国風土記』本文校訂や遺跡・遺物等の考古学資料、中・近世の『出雲国風土記』『神門水海』関係史料、「神門水海」湖岸線復元に関わる地質関係のデータ等を集成しています。

この『論考編』では、『資料編』を踏まえ、「出雲郡の歴史的研究」「杵築郷及びその周辺の研究」のテーマで各研究を報告しています。

(専門研究員 野々村安浩)

【目次】

- 神門水海北辺の風土記景観
第1章 出雲郡の歴史的研究
1節 一煮炊き具からみた古代出雲平野の地域性—出雲西部土製支脚考—
2節 出雲国の社・神社と郡・郷・里・村
3節 神門水海の生業と地域社会
4節 出雲国西部の氏族構成について
5節 中世杵築郷周辺の景観と生業
6節 杵築大社における「四至」認識と近世の新田開発
—松江藩との湊原境争論をめぐって—
第2章 杵築郷及びその周辺の研究
1節 出雲郡神社回廊
2節 出雲大社の高層性の意味
3節 地質コア解析に基づいた出雲平野の形成史
本体価格2,000円(送料340円)
(A4判, 157P)

※『資料編』本体価格3,000円(送料340円)〈A4判, 201P〉

【購入のお申込み】

郵便振替 01440-5-4431 島根県文化財愛護協会

※原則として前金制です。本体価格と送料をあわせて上記の口座にご入金いただきましたら本を発送します。
※振替用紙の通信欄に、書籍名と冊数をご記入ください。

〈お問い合わせ〉 島根県文化財愛護協会 (島根県教育庁文化財課内) ☎0852-22-5879

こ だい いすも れき はく まわりのいまむかし
[古代出雲歴博周辺今昔]

かいしょ おおやしろ
会所・大社の旧迎賓館



出雲大社銅鳥居前広場の右手奥に、訪れる人もない木造の建物が静かに余生を送っています。この建物は会所と呼ばれ、寛文の御造営のときに拝殿の東南東、現在の神祇殿しんこでんのあたりに建てられました。

以来270年近くもの間、大社に参拝された勅使ちよくしなど貴賓の休憩・宿泊や、お祭りの参籠さんろう、江戸時代には連歌会などの催しにも使われてきました。しかし、昭和8年に勅使館(貴賓館)が建てられるに伴ってその役目を終え、昭和の遷宮にあたって今の場所に移されました。
(ふるさと案内人 馬庭孝司)

秋篠宮様ご来館

石見銀山展開催中の7月31日、秋篠宮殿下、同妃殿下及び眞子内親王殿下が当館へお成りになりました。

最初に、中央ロビーにおいて宇豆柱の説明を当館の上田名誉館長からお聞きになられた後、常設展と石見銀山展をご覧になりました。

石見銀山展は、7月14日から9月24日の間、当館と石見銀山資料館で開催しましたが、最終日に両館で入館者10万人を突破しました。



[イベントニュース]

夏のイベント報告

～古代出雲れきはくのにしらべ～「薩摩琵琶の演奏会」

開館150日の記念イベント「博物館の七夕まつり」の一環として、8月7日に薩摩琵琶の演奏会を行いました。全国で演奏活動を展開されている薩摩琵琶奏者の高久里さんをお招きし、博物館としては初めての中央ロビーでの開催となりました。



普段、なかなか聞くことのできない薩摩琵琶の演奏会ということもあって、平日の午前中にもかかわらず、大勢のお客様にご来場いただきました。

高久里さんの、時に激しく、時に切なく奏でられる琵琶の音色と歌声で、小泉八雲の小説「怪談」でもおなじみの「耳なし芳一」と「五位鷺」の2曲を楽しんでいただきました。



その他にも博物館では、多彩なイベントが行われました。

7月7日(土)～8日(日)には、「はくぶつかんの七夕」を実施しました。エントランスホールにおかれた笹が大勢のお客様の短冊や七夕飾りで飾られ、博物館に夏の訪れを告げていました。

トワイライトミュージアム



7月21日から8月25日までの毎週土曜日と大社ご縁祭りが開催された8月15日、いつもは閉館となる午後6時からトワイライトミュージアムを行いました。

8月15日は、出雲市や松江市で活動している、アマチュアバンド4組が出演するライブを実施。アフリカの民族楽器と現代テクノロジーが融合した音楽など披露してもらいました。

そして、8月18日には、「神話の夕べ」と題して、第1部『ものがたりの読み聞かせ』と第2部『出雲神話(いずもかみがたり)』を開催しました。

第1部の『ものがたりの読み聞かせ』は、親子を対象にボランティアや職員による出雲神話の絵本の読み聞かせに加え、手遊びやパネルシアターで楽しいひとときを過ごしました。

第2部の『出雲神話』では、森田学芸員が古代衣装に身を包み、神話の語り部に扮して、「古事記」より「国生み」、「アマテラスとスサノオ」、「ヤマタノヲロチ退治」の3話を上演。

暮れかかる風土記庭園と北山をバックに、神話がまだ語り部により人々に語られていた時代の雰囲気再現。森田学芸員の熱のこもった語りで、神々がいきいきと活躍する姿を思い浮かべながら、古のロマンに心躍らせるひとときを過ごしました。



NTT西日本

「光」ひろがる。ひびきあう。

古代「伝える気持ち 和歌に託して」

現代「伝える気持ち インターネットに託して」

光ある未来を島根に!

セキュリティ標準装備

フレッツ 光プレミアム

+

月額使用料がおトクな光IP電話

ひかり電話A

0120-116116
【受付時間】午前9時～午後9時まで

提供エリアの詳細など詳しくはブロードバンド専門サイト「SHIMANE Flet's Club」で

<http://www.ntt-west.co.jp/chuugoku/shimane/>

NTT西日本島根支店

ご来館30万人達成！ 9月21日(開館196日目)

半年ちょっとで目標を達成できたことは、特にこの『博物館ニュース』に目を通してくださっている熱心な博物館ファンのみなさまのご支援の賜と、深く感謝しています。現状に満足することなく、いっそうがんばってまいります。変わらぬご支援とご鞭撻をよろしくお願いいたします。

島根県立古代出雲歴史博物館 館長 金築 孝



夏休み“はくぶつかん体験楽” 古代グッズ手作り体験工房

8月の毎週土曜日、4日、11日、18日、25日に、体験工房で子どもたちを対象とした「古代グッズ手作り体験工房」“勾玉作り”を行いました。

最初に学芸員から勾玉の歴史などの講義を聞いた後、早速、勾玉作りに取りかかりました。砥石(ブロック)で削ったり、紙ヤスリで磨いたりして、苦労しながら勾玉を完成させ、楽しい時間を過ごしました。世界で唯一の勾玉を見つめるみんなの目は、とても満足そうでした。



また、当日は、子どもボランティアや博物館のボランティアの方々にもお手伝いいただきました。

夏休み“はくぶつかん体験楽” 古代出雲れきはく探検クイズラリー

夏休み期間中の7月21日から8月31日まで、「古代出雲れきはく探検クイズラリー」を実施しました。

総合受付で答えを記入するカードを受け取り、展示室の前や展示室内におかれた問題を探して答えていく、ラリー形式のクイズです。ゴールすると、博物館特製の銅鐸のペーパークラフトをプレゼント。

期間中、子どもからお年寄りまで幅広く約5,800の方に参加していただき、大いに盛り上がりました。



体★験★楽

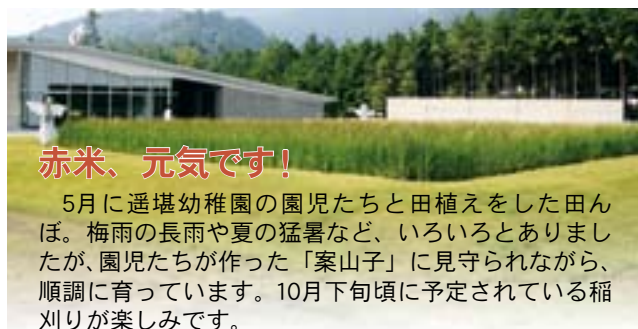
あいだ “藍建て” はじまる

藍染工房だより

9月12日(水)より、博物館待望の藍建てが、京都から板締め作家の石塚広氏を指導者としてお招きし、学芸員やボランティアも多数参加して、体験工房にある藍染工房にて始めました。

まず、石塚氏から藍を建てる行程などの講義を受け、いよいよ藍建て作業の始まりです。藍の葉から作った「すくも」を甕に入れ、沸騰した灰汁を注ぎながらかき混ぜていきます。

今回建てた藍は、来年3月に開会する企画展の関連イベントで染色体験に使用する予定です。どうぞお楽しみに。



赤米、元気です！

5月に遥堪幼稚園の園児たちと田植えをした田んぼ。梅雨の長雨や夏の猛暑など、いろいろとありましたが、園児たちが作った「案山子」に見守られながら、順調に育っています。10月下旬頃に予定されている稲刈りが楽しみです。

秋のイベント案内

秋の体験楽～「弥生王墓誕生」展関連ワークショップ～

① 弥生土器づくり体験

企画展「弥生王墓誕生」で展示された土器の中からお手本を決めて、土器作りにチャレンジします。こだわりのオリジナル土器を作ってみませんか！

■日時/11月18日(日) 13:00～16:00

② 「はんこ(印)」づくり体験

誰もが一度は教科書などで見たことのある、あの「金印」(国宝)が、この秋、出雲にやってきます。そんな金印に負けないくらいすてきな、自分だけの「はんこ」を作ってみませんか！

■日時/12月9日(日) 13:00～16:00

※いずれも事前申し込みが必要です。参加費500円と企画展観覧料が必要です(ただし企画展観覧料は半額となります)。

※秋のイベントに関する詳しいお問い合わせは古代出雲歴史博物館まで。[TEL 0853-53-8600]

★ DoCoMo 20 申し込んだその日から

基本使用料

株式会社NTTドコモ中国 島根支店

みんないきなり 半額に！

ファミ割 ★ MAX 50
Just for family

ひとりでも割 ★ 50
Just for you

オフィス割 ★ MAX 50
For business

●1回線ごとのお申し込みが必要です。旧料金プランの方は新料金プランへの変更が必要となります。●2年間同一回線の継続利用が必要条件となります。
●契約期間中に割引サービスの廃止、ご契約回線の解約または利用休止の場合は、継続利用期間にかかわらず9,975円(税込)の解約金が必要となります(契約満了月を除く)。

ボランティアによる 読み聞かせ

夏休みイベント「トワイライトミュージアム」で、読み聞かせが行われました。

読み聞かせをしていただいたのは、古代出雲歴史博物館のボランティアスタッフの一員で、出雲市立大社図書館「でんでんむし」においても読み聞かせの活動をしてられる多々納テル子さんです。

出雲神話の絵本「いなばのしろうさぎ」を読む多々納さんの語りに吸い込まれるように、子どもたちは目を輝かせ、身を乗り出して聞き入っていました。



ご来館のみなさまの声

■島根は古代史の宝庫なので、このような博物館があればいいなと思っていました。荒神谷、石見銀山、加茂岩倉のような素敵なものがあるので、博物館は必要ですね。沖縄の博物館も素敵でしたが、各地方地方に文化や歴史があるので、地方の発展のためにもこのような博物館が出来、考古学などを志す若い人々が増え、島根の発展につながればいいなと思いました。地元の小中高生必ず訪れるとよいと思います。これからも頑張ってください。(東京・40代女性～8月) ■期待以上の内容充実ぶりでした。資料収集、開館準備など大変なご苦労があったと思います。地元出身の人間にとって、改めて故郷を認識する機会になるとともに、故郷を誇りたい気持ちになりました。友人知人に広めたいと思います。ありがとうございました。(兵庫・50代女性～8月) ■歴史のあるところに住んでいることがうれしい。(県内・60代女性) (利用者満足度調査アンケートより)

古代出雲歴博カレンダー

10 神在月～October

- 12日 弥生王墓展開幕
- 13日 古代文化講座「中世富田城と戦国時代城下町研究」
(広瀬中央交流センター)
- 21日 第1回講座「四隅突出型墳丘墓の発見史」
- 26日 しまね県民大学「しまねふるさと学」
- 27日 弥生探訪バスツアー
- 28日 神話の里たいしゃ健康ウォーク
- 31日 ぜんざいの日

11 霜月～November

- 3日 古代出雲歴博秋まつり(～4日)・弥生探訪バスツアー
- 4日 第2回講座「四隅突出型墳丘墓の誕生秘話」
- 5日 縁結びの日
- 11日 神在月古代文化シンポジウム(大社文化プレイス)
- 17日 弥生探訪バスツアー
- 18日 弥生土器づくり体験
- 19日 出雲大社神迎祭・神在祭(19日～25日)
- 25日 第3回講座「山陰の集落遺跡から王墓をみる」

12 師走～December

- 2日 第4回講座「青銅器祭祀の終焉と王墓」
- 9日 「はんこ(印)」づくり体験
- 16日 弥生王墓展開幕

特別講座 体験講座 イベント 行事
お問い合わせ：古代出雲歴史博物館 TEL0853-53-8600

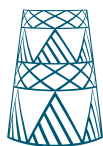
「古代出雲歴博秋まつり」をいっしょに盛りあげてみませんか。物産市に出店していただける方、伝統芸能などのパフォーマンスを演じていただける方を募集しています。

企画展のご案内

- 12月 平成20年 特集展「出雲地方の正月行事」
平成19年12月25日(火)～平成20年1月14日(月)
- 1月 特集展「新発見!とっとり・しまね発掘速報展」
平成20年1月18日(金)～2月18日(月)
- 2月
- 3月
- 4月 企画展「甦る幻の染色 出雲藍板締め」(仮)
～古代板締めからの系譜～
- 5月 平成20年3月7日(金)～5月18日(日)
- 6月 特集展「絵でみる考古学～早川和子原画展～」
平成20年5月31日(土)～7月6日(日)
- 7月
- 8月 特別展「聖地★巡礼—自分探しの旅へ—」(仮)
平成20年7月26日(土)～9月15日(月)
- 9月
- 10月 企画展「秘仏への旅—出雲・石見の観音巡礼—」(仮)
平成20年10月4日(土)～11月30日(日)
- 11月
- 12月

特集展は常設展チケットでご覧いただけます

発行/平成19年10月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL: <http://www.izm.ed.jp>
E-mail: contact@izm.ed.jp



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん